

木山中フライド

益城町立木山中学校

平成30年5月6日

NO1 文責 河瀬清彦

初心を忘れず、充実した中学校生活を！

進級、進学から1ヶ月が過ぎましたが、1年生はワクワクの中にもドキドキが混じり、そして、先輩や先生方の指示について行くのが精一杯の1ヶ月間だったのではないのでしょうか。新しい世界（中学校）でがんばろうと胸をときめかしている今の思いをいつまでも忘れず、充実した3年間の中学校生活を送ってほしいと思います。また、3年生は、最上級生として木山中学校を引っ張っていかなくてはならないという責任感、進路決定に向け学び続けるという向学心を、2年生は、中堅学年として、先輩の姿から学び、生徒会・部活動を引き継いでいなくてはならないという意気込みを感じた1ヶ月間ではなかったでしょうか。2年生、3年生においても、この思いを持ち続け、中学校生活を充実させてほしいと思います。



さて、熊本地震から2年目を迎えるにあたって、始業式と入学式には、願いを3つしました。

- (1) 自分の命を守り大切にし、幸せを考えると同時に、周りの人たちの命も大切にし、幸せになるような思いやりのある行動力を身につけてほしい
 - (2) 「学校、友達、家族そして自分自身のために、何ができるのだろうか、何をすべきなのだろうか」を考え、益城町・木山中の復興に参加しよう
 - (3) 「場」「礼儀」「時」を大切にすることができる力を育ててほしい
- 木山中学校生徒の皆さんの成長を楽しみにしています。

平成30年度職員紹介

平成30年度は、32名の教職員で、学校教育目標である「自立心と共生の心もち、夢実現に向けて努力し続ける生徒の育成」に向け、精一杯力を尽くしたいと思います。どうぞよろしくお願いたします

4年部	1年部	2年部	3年部
校長・・・	主任・・・	主任・・・	主任・・・
教頭・・・	1組担任・・・	1組担任・・・	1組担任・・・
主幹教諭・・・	2組担任・・・	2組担任・・・	2組担任・・・
教務主任・・・	3組担任・・・	きらら2組担任	3組担任・・・
養護教諭・・・	副担任・・・	・・・	きらら1組担任
事務職員・・・	//	副担任・・・	・・・
用務員・・・	いきいき益城っ子職員	ドリーム益城っ子職員	副担任・・・
ALT・・・	・・・	・・・	//・・・
	・・・		町支援員・・・
	・・・		

・育児休業をとられている先生（・・・、・・・）

今年1年間、よろしくお願いたします。



第68回 入学式が行われました

4月10日(火)に、西村博則益城町町長様をはじめ多数のご来賓をお迎えし、第68回入学式が行われました。本年度は89名の新入生が入学しました。改めて、新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。自分を大切に、友達を大切に、一日一日を大切に、充実した中学校生活を過ごしてください。また、新入生代表として・・・くんが、堂々と「新入生誓いの言葉」を述べてくれました。

「中学校では小学校よりも自分の行動に責任を持つ幅がさらに広がります。また、熊本地震で、町は大きな被害を受けました。時には苦しいことや迷うこともあるかもしれませんが、小学校で学んできたことを生かし、さらに新しいことに挑戦し、中学校生活3年間を精一杯取り組んでいきたいと決意を新たにしています。先輩たちが築き上げてこられた木山中学校の伝統を学び、さらに発展させられるよう努力し、人を思いやる気持ちを忘れず、たくましく成長していくことをここに誓います。」



【入学式の様子】

かみましき「命と防災」の日の取組

熊本地震から2年目を迎え、本年度も熊本地震を振り返り、次への目標を持たせることで、今後の生活への意欲を高めさせたいと、4月16日(月)に2周年式典として「かみましき命と防災の日」の取組を行いました。当日は、私が「命」を守ることや「減災」のためには、記録を行い後生につないでいくことや科学的知識をつけることが大切であると話をしました。また、熊本地震発生直後より、木山中学校の復興支援に入っていますNPOカタリバの・・・氏より、講話をしていただきました。また、講話後は、・・・養護教諭からリラクゼーションプログラムを行ってもらいました。ドラえもん参加があり、和やかな雰囲気です式典を終えました。式典後、学級では、この2年を振り返り、これからの生き方を考えるということで、「綴る活動」を行いました。1年生においては、入学式後間もないため、自己紹介として「綴る活動」を行いました。

○3年生「綴る活動」から

【3年・・・くん】

僕は2016年の熊本地震を経験しました。そして、水も食料もなくなり全国から物資をいただきました。その時、僕は地震とは、命を奪うことと、人の暮らしを苦しめるものだと感じました。今でも地震前の町に戻っていません。そして、僕たちの学級でも、今、復興に向けて頑張っています。復興に向けて僕ができることは2つあります。1つ目は、全国の人たちに感謝を持つことです。地震の時は、水や食料を頂いたことを絶対に忘れず感謝を持つようにしています。2つ目は、地震のボランティアに取り組むことです。皆がボランティアしているところを見て僕も参加しようという気持ちになり、これからは、復興に向けていろいろなことに取り組むようにしていきたいと思いました。

【3年・・・さん】

あの熊本地震から、2年が経ちました。地震が起きて、避難所生活をしていました。その時は、あまり何が何だか分からなくて、当たり前だった生活ができなくて不便な日々が続きました。でも、少しずつ復興していく中で、私は先輩がボランティアをしている姿が目に入りました。その姿を見て「自分も先輩方のように少しでもより良く過ごせるためにボランティア活動をしたいな」と思いました。それをきっかけに一緒にいた友達でボランティアをしました。今考えてみると、人のために行動することはとてもいいことだと思います。そして、早いことに2年が経ちました。今の自分を振り返ってみると、あのとき不便だった生活で感じた「当たり前」や誰かのために行動するという気持ちが薄れてきていると思います。この熊本地震を体験した私たちだから、言えること、分かること、伝えられることがたくさんあると思います。それに、この熊本地震のことを誰かに伝えていくことになったときに、伝えていかなければならないのは私たちだと思います。だから、熊本地震を体験して感じたこと、たくさんの気持ちは忘れてはいけません。まだ復興中の益城町ですが、私たちにできることはたくさんあります。私は、これからの行動を見直し、役に立てる人になりたいと思います。

【3年・・・くん】

平成28年4月16日、2度目の地震が起き、2日前より大きく、初めてこれほど大きい地震を体験しました。外を見ると前まで見ていた風景とは違い、建物は崩れてしまい、道はガタガタで瓦礫が落ちていて、家の中はぐちゃぐちゃ、水も出るはずがなく、電気もつきませんでした。学校に行けることになって、いつも通っていた道は通れなくなって、毎日大変な日々が続いていました。でも、僕は地震があったことで身に付いたことがあると思います。それは、「感謝」をする気持ちです。地震があって、いろいろな場所から物資を送ってもらったり、配給があったり、そのことに感謝することが大切だと思ったからです。また、益城は一番被害の多かったところ。亡くなられた方もたくさんいらっしゃいました。私たちは、その亡くなられた方のことを考え、「命」を大切にしていかなければならないと思います。



【井下氏の講話】



【真剣に講話を聞く生徒】



【リラクゼーションプログラムの様子】